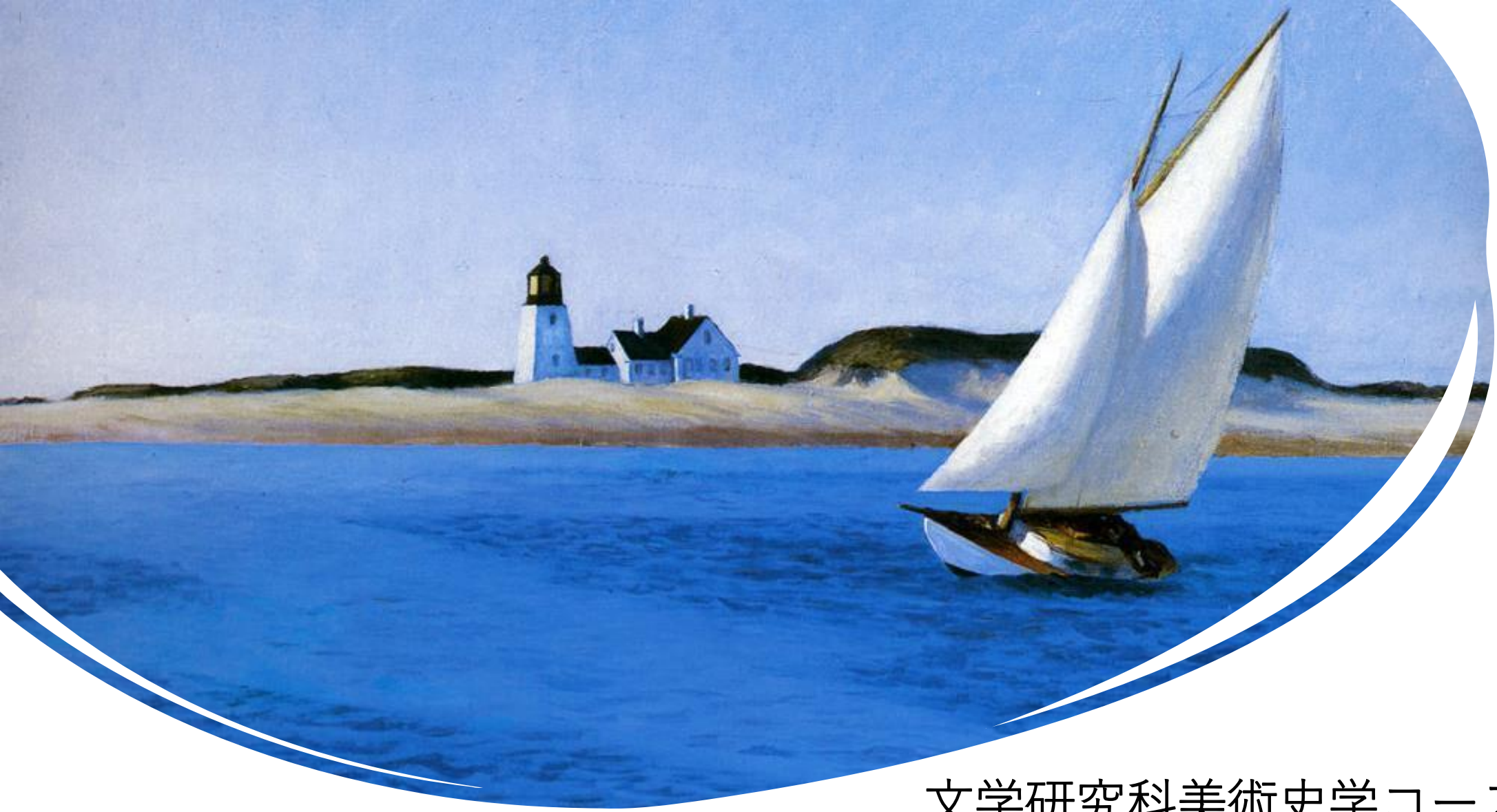


文学研究科美術史学コース
説明会資料

美術史学コースには、1951年の早稲田大学大学院文学研究科創設以来の伝統がある。さらに、その基盤となる学部教育の開始は1925年に遡り、我が国有数の美術史学専門の教育・研究機関である。数多くの研究者、専門家を養成・輩出し、卒業生のネットワークは、全国の美術館・博物館・大学・マスメディアなどに広がっている。

興福寺・八部衆像（阿修羅）

美術史学の目的は、

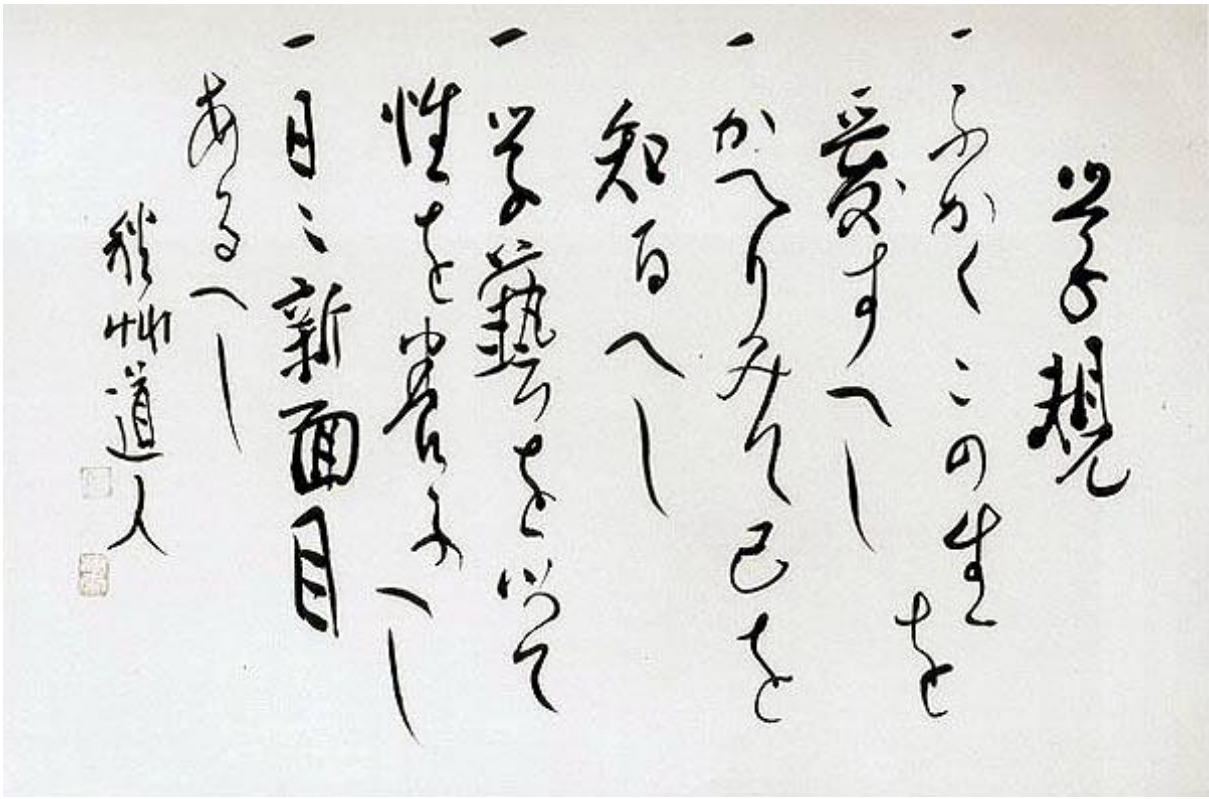
造形作品の背後にある人間の営為を、

多角的なアプローチによって明らかにすること。

トルコ・カッパドキアにおける壁画の調査風景

美術史学コースの前身は、
書家・歌人としても著名な
秋艸道人（しゅうそうどうじん）
會津八一によって
創設されました。

実物（美術作品）を見ること
文献史料を読むこと
この二つが美術史研究の両輪だと説く、會津八一の教育方針は、
今なお美術史学コースに脈々と受け継がれています。

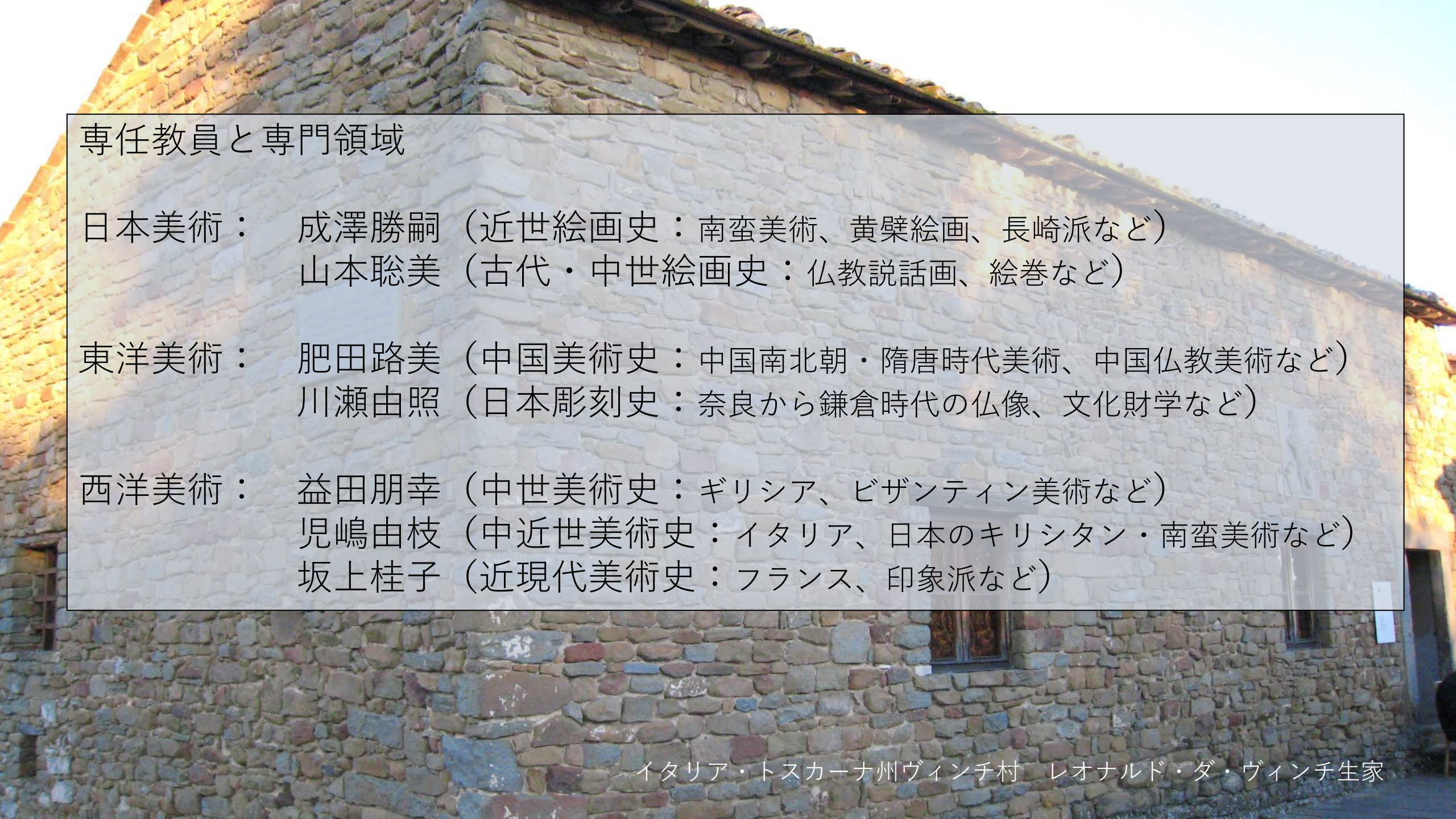


早稲田大学會津八一記念博物館
https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/about/

同館HP「會津八一と博物館」
https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/about/history/

7名の専任による教授陣を擁し、
自分の専門領域だけでなく、多彩な研究に触れられる。
さらに、非常勤講師による専門講義も充実。
美術の歴史を多角的に把握し、
美術史学の未来を切り開く、
次世代の研究を担う人材育成の場。

イタリア・ウンブリア州アッシジ　フランチェスコ聖堂



専任教員と専門領域

日本美術：　成澤勝嗣（近世絵画史：南蛮美術、黄檗絵画、長崎派など）
　　山本聡美（古代・中世絵画史：仏教説話画、絵巻など）

東洋美術：　肥田路美（中国美術史：中国南北朝・隋唐時代美術、中国仏教美術など）
　　川瀬由照（日本彫刻史：奈良から鎌倉時代の仏像、文化財学など）

西洋美術：　益田朋幸（中世美術史：ギリシア、ビザンティン美術など）
　　児嶋由枝（中近世美術史：イタリア、日本のキリシタン・南蛮美術など）
　　坂上桂子（近現代美術史：フランス、印象派など）

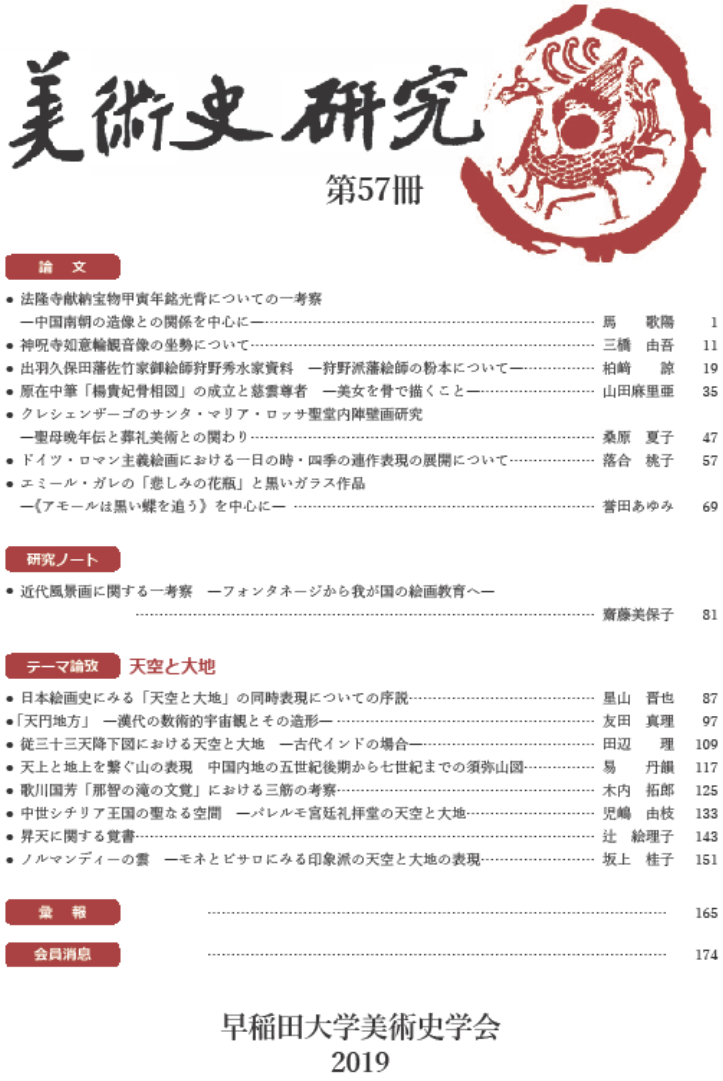
イタリア・トスカーナ州ヴィンチ村　レオナルド・ダ・ヴィンチ生家

早稲田大学美術史学会について

美術史学コースでは、早稲田大学美術史学会を運営している。会員数は400名を超え、コースの在学生、大学院生、教員、そして全国各地で活躍している卒業生で構成されている。

６月に総会、１１月と３月に例会を開催し、学会員による最新の研究成果を発表する場としているほか、国内外の研究者を招いて講演会やシンポジウムを行うこともある。

大学院生にも発表の機会があり、総会や例会の運営にも携わってもらう。学内に学会を有していることは、研究者としての業績や経験を早くから蓄積することにつながり、アカデミックキャリアの構築に大きなアドバンテージとなる。



美術史研究

第57冊

論　文

- 法隆寺献納宝物甲寅年銘光背についての一考察
  ―中国南朝の造像との関係を中心に―…… 馬　歌陽　1
- 神呪寺如意輪観音像の坐勢について…… 三橋　由吾　11
- 出羽久保田藩佐竹家御絵師狩野秀水家資料　―狩野派藩絵師の粉本について―…… 柏崎　諒　19
- 原在中筆「楊貴妃骨相図」の成立と慈雲尊者　―美女を骨で描くこと―…… 山田麻里亜　35
- クレシェンザーゴのサンタ・マリア・ロッサ聖堂内陣壁画研究
  ―聖母晩年伝と葬礼美術との関わり…… 桑原　夏子　47
- ドイツ・ロマン主義絵画における一日の時・四季の連作表現の展開について…… 落合　桃子　57
- エミール・ガレの「悲しみの花瓶」と黒いガラス作品
  ―《アモールは黒い蝶を追う》を中心に―…… 菅田あゆみ　69

研究ノート

- 近代風景画に関する一考察　―フォンタネージから我が国の絵画教育へ―
  …… 齋藤美保子　81

テーマ論攷　天空と大地

- 日本絵画史にみる「天空と大地」の同時表現についての序説…… 星山　晋也　87
- 「天円地方」　―漢代の数術的宇宙観とその造形―…… 友田　真理　97
- 従三十三天降下図における天空と大地　―古代インドの場合―…… 田辺　理　109
- 天上と地上を繋ぐ山の表現　中国内地の五世紀後期から七世紀までの須弥山図…… 易　丹韻　117
- 歌川国芳「那智の滝の文覚」における三筋の考察…… 木内　拓郎　125
- 中世シチリア王国の聖なる空間　―パレルモ宮廷礼拝堂の天空と大地…… 児嶋　由枝　133
- 昇天に関する覚書…… 辻　絵理子　143
- ノルマンディーの雲　―モネとピサロにみる印象派の天空と大地の表現…… 坂上　桂子　151

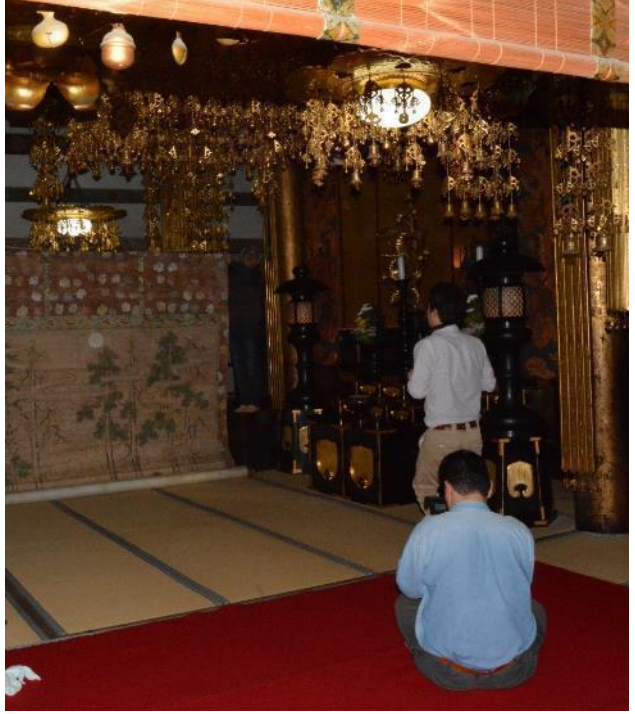
彙　報 …… 165

会員消息 …… 174

早稲田大学美術史学会
2019

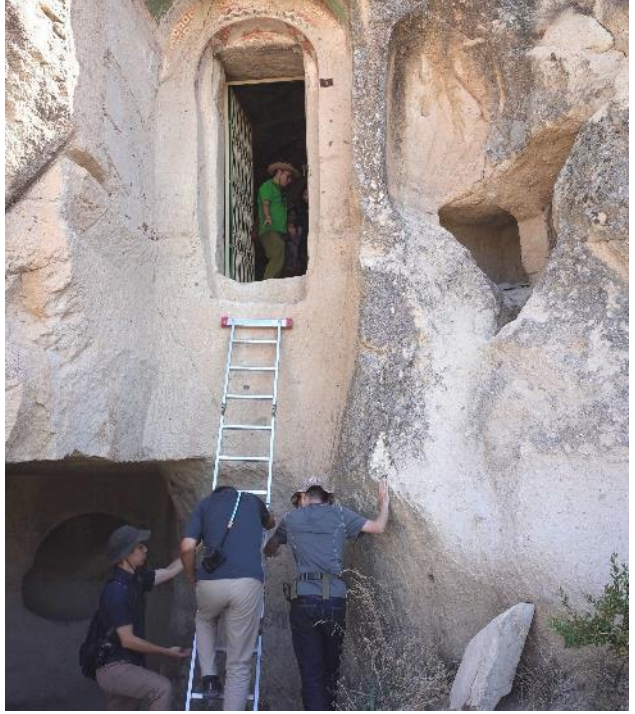
早稲田大学美術史学会学会誌
『美術史研究』

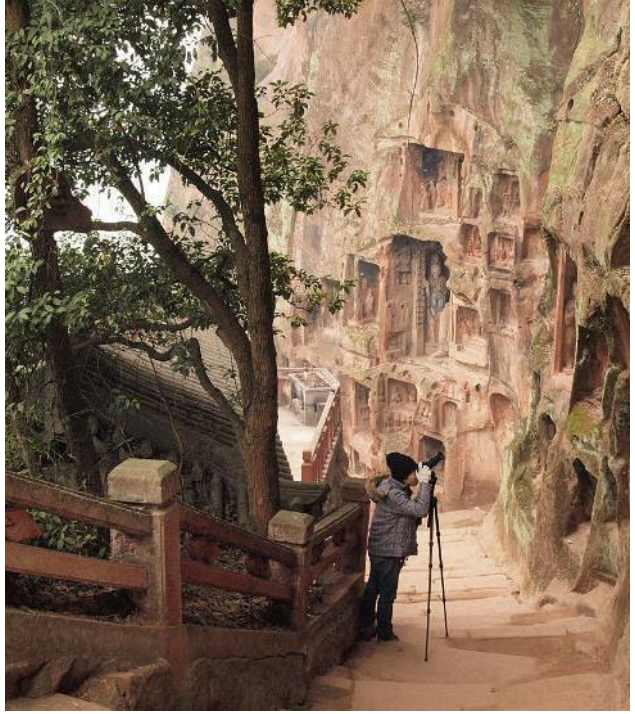
早稲田大学美術史学会の機関誌として、
１９６２年に創刊された。
今年度は第63冊の発行を予定。
学会員でもある大学院生は、論文・テーマ論攷・研究ノートへの投稿ができ、査読を経て自らの研究を公開する機会を得ることができる。



◆国内調査：日本各地

美術史コースの教員は、科学研究費などの外部資金を得て、美術館、博物館などの文化施設、寺社や個人所蔵者等の協力のもと、絵画・彫刻の調査を行っている。教員とともに、このような機会に参加することは、将来、専門職に就くうえで重要な経験となる。





◆海外調査：中国、米国、ヨーロッパ各地

また、調査先が海外に展開される場合も多い。日・東・西いずれの分野においても、国際的な研究のフィールドを開拓することが不可欠である。まずは教員の調査に陪席することで、大学院生のうちから、幅広い経験を積んでいただきたい。

◆国内外での研究会やシンポジウム

早稲田大学美術史学会や、その他国内外の学会、シンポジウムへなどを通じて、美術史研究の最先端に触れる機会が数多くある。積極的に参加し、現在何が論点とされ、どのような方法で学術の地平が切り拓かれていくのか、実践的に学び取っていただきたい。

◆留学

美術史学コースでは、数多くの先輩たちが、交換留学制度や各種奨学金を活用し、留学を実現してきた実績がある。1～2年の留学で作品調査や資料収集に取り組んだり、早稲田で修士課程修了後に、海外の大学へ長期留学し博士学位取得を目指す場合など、留学期間や目的は様々である。西洋美術史はもちろん、東洋美術史や日本美術史においても、広く海外で学ぶことの意義は大きい。

◆近年の留学実績

ブリュッセル自由大学（ベルギー）早稲田大学交換留学
バーゼル大学（スイス）早稲田大学交換留学
ニューヨーク市立大学（アメリカ）
パリ西大学ナンテール/ラ・デフォンス（フランス）フランス政府奨学金
パリ第３大学ソルボンヌ＝ヌーヴェール(フランス)ロータリー財団奨学金
パリ第８大学（フランス）
フランス社会科学高等研究院（フランス）
グラナダ大学(スペイン)早稲田大学留学プログラム(EX-R)・早稲田大学栄光奨学金
ハーバード大学イェンチン研究所（アメリカ）
北京大学考古文博学院（中国）
ミュンヘン大学（ドイツ）
ロンドン大学SOAS（イギリス）

◆参考　修士課程在学Nさんの留学
留学期間：2018年9月～2019年6月
留学先：スペイン・グラナダ大学(Universidad de Granada)
・早稲田大学の留学プログラム(EX-R)を利用。
・Máster Universitario en Tutela del Patrimonio Histórico-Artístico. El legado de al-Ándalus.に所属。

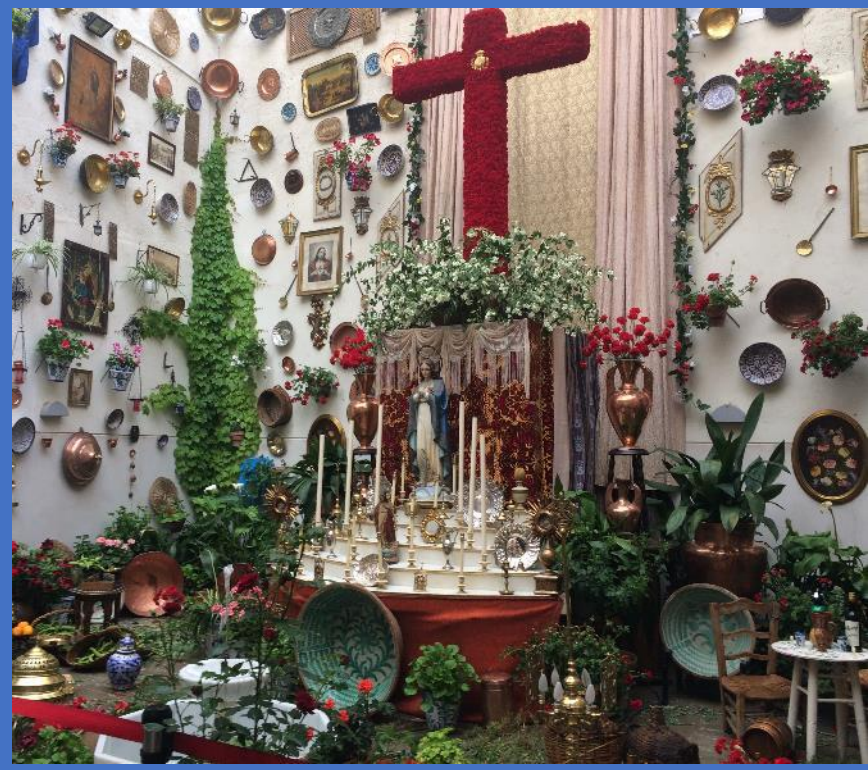
研究テーマ：17世紀スペインの彫刻、特にアロンソ・カノと代表作である彫刻、≪無原罪の御宿り≫について。

◆留学中の生活や費用

早稲田大学の栄光奨学金を受給。住居は、グラナダ大学の提供する寮。これは元々修道院だった場所で、落ち着いた雰囲気。生活費や滞在費の一部は私費。

◆留学の成果など

文献で見つけた作品を、すぐに何回でも見に行くことができ、比較や図版収集が進展した。また、現地の美術史を学ぶ同世代の学生との繋がりを築けたことも、今後の研究の財産。さらに、キリスト教の祝祭に直接触れたことで、現地のキリスト教信仰の熱狂を感じることが出来た。



◆参考　博士後期課程在学Hさんの留学

留学期間：2019年8月～2020年5月

留学先：米国・ハーバード・イェンチン研究所（Harvard-Yenching Institute）

https://harvard-yenching.org/

滞在先での身分：同研究所Visiting Fellow兼ハーバード大学大学院 GSAS (The Graduate School of Arts and Sciences) Visiting Fellowとして在籍。

研究テーマ：「ティムール朝絵画における中国美術からの影響」。特に、明と直接交流があったティムール朝ヘラート派絵画に注目。

◆留学中の生活や費用

滞在費：学振DCに採用されていたほか、同研究所から月額約2000ドルの滞在費を受給。

※同研究所のフェローシップに採用されると、通常2セメスター（10ヶ月）分の滞在費が支給される（通常は月額約3000ドル、Hさんの場合、学振DCも得ていたので2000ドルで調整）。希望者は自己負担で滞在を延長することもできる。住居は大学の寮。

※同フェローシップは、イェンチン研究所がアジアの大学との共催で開催するトレーニング・プログラムに参加した研修生の中から選ばれる。2018年に早稲田大学で開催されたプログラムに応募し採用された。

◆留学の成果

様々な文化的背景を持つ研究者との交流が貴重な体験。
研究上のセオリーや議論する上での前提が各々異なるなど、相互理解が大変な面もあったが、その分新たな視点が得られた。また、美術品、図書資料や専門のスタッフも豊富で充実した研究環境。滞在中は、美術館で調査を行ったり、授業を聴講したり、イェンチン研究所内のワークショップで発表する機会もあった。帰国後は、それらを踏まえて博論を執筆中。

◆参考　博士後期課程在学Yさんの留学

留学期間：2019年9月～2020年6月

留学先：Sorbonne Université, Faculté des Lettres, UFR d'histoire de l'art et d'archéologie, ソルボンヌ大学（旧パリ第4大学） 文学部 美術史・考古学専攻

留学先での身分：Doctorat（博士後期課程学生）※早稲田大学からの2019-2020年度EX-Rプログラム交換留学生として在籍。

研究テーマ：「画家マリー・ローランサンの画風形成における同時代芸術からの影響」特に、キュビスムをはじめとする20世紀初頭の同時代芸術とのかかわりに注目。

◆留学中の生活や費用

ロータリー財団奨学金（ US$20,000 ）を受給。本奨学金の応募にあたっての研究分野は不問で、１年間の海外大学への留学のために使用可能。受給金額は応募する国際ロータリーの地区によって異なる。住居は国際大学都市（Cité internationale universitaire de Paris）という寮に滞在。シテは基本的に修士課程以上の学生や研究者らが入居を許されているため、落ち着いた環境。

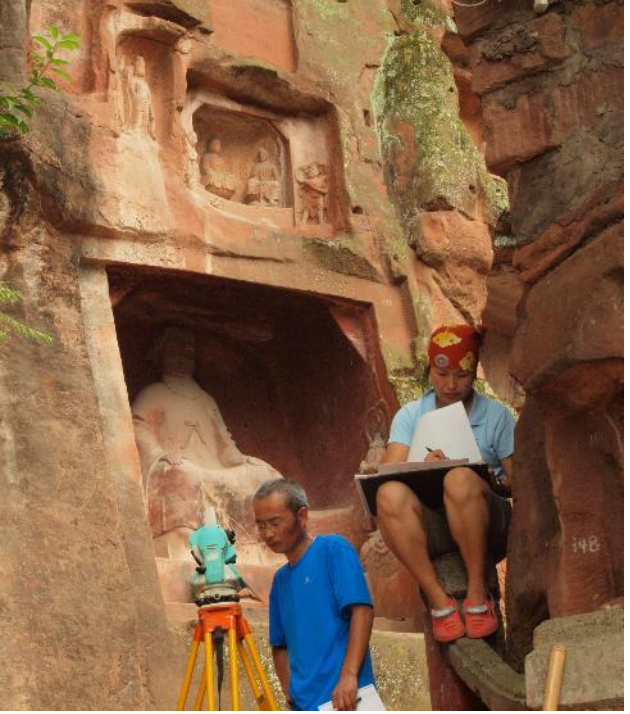
◆留学の成果など

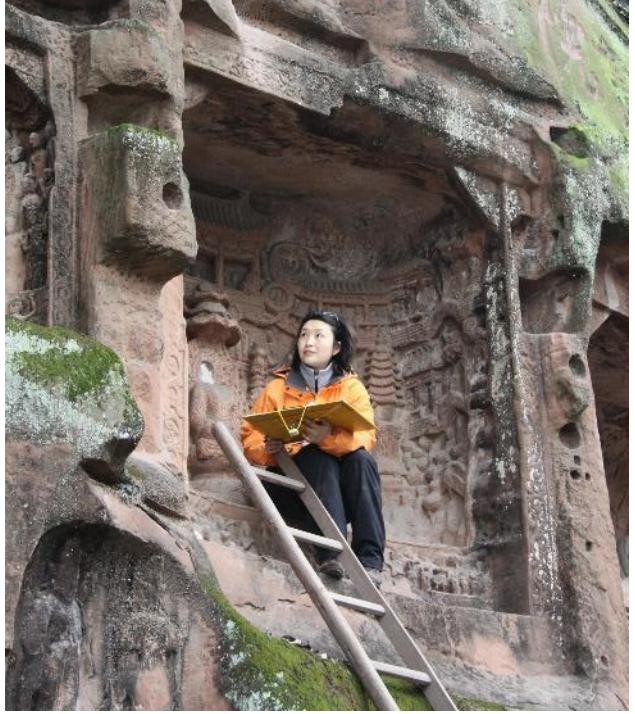
・大学での講義と並行して、様々な研究機関で調査活動を実施。特に国立美術史研究所図書館（Bibliothèque de l‘Institut national d’histoire de l‘art）では、画家の手稿などの一次資料に接し、先行研究で明かされていない様々な情報を得ることができた。

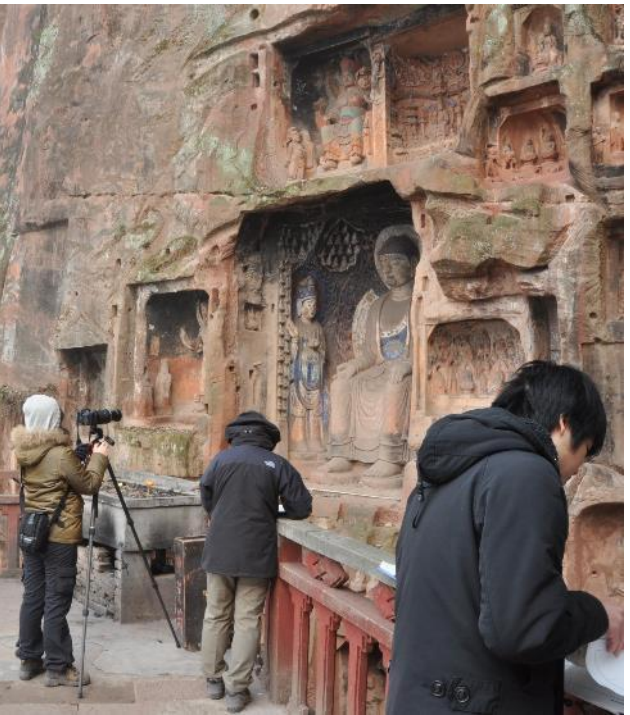
・長期間の滞在により、じっくり時間をかけた調査や研究が可能となった。

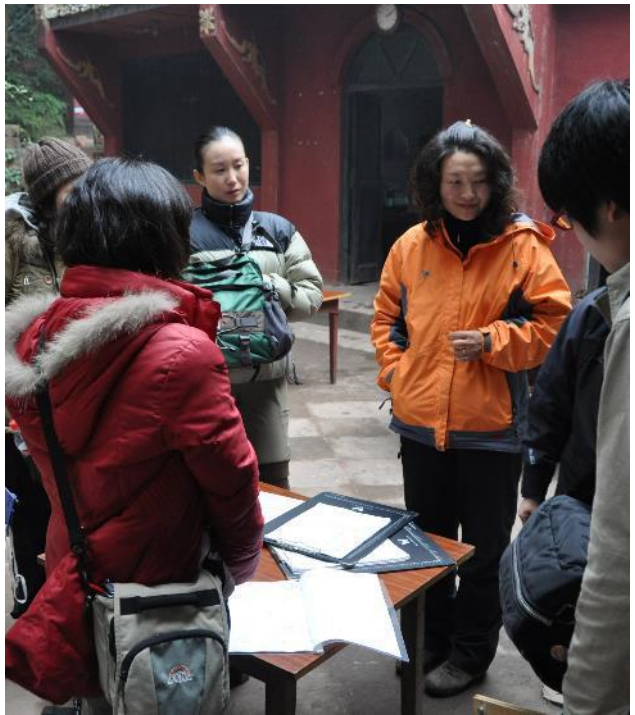
・美術史の基本である“本物に触れる”という経験ができたことは最も大きな成果のひとつ。現地の美術館等で貴重な作品に接するだけでなく、古い街並みが今も残るパリで、画家が実際に暮らした世界を追体験した日々は、今後研究を続けるうえで大きな糧になる。

・もちろん留学は語学力の向上にもつながる。









◆研究室の活動（参考）

2009～12年にかけて、日中共同（早稲田大学・西安美術学院・四川省文物考古研究院等）で行った四川省・夾江千仏岩調査。

◆研究室の活動（参考）

2017年3月　第11回日本美術史に関する国際大学院生会議(JAWS: The 11th International Workshop on Japanese Art History for Graduate Students)への参加。※JAWSは3～4年に１回、日本か欧米の大学・美術館などがホストになって開催される、日本美術史を研究する大学院生のためのワークショップ（2017年はハーバード大学、ボストン美術館、メトロポリタン美術館他にて研究発表・ディスカッション・作品調査）。

就職・学芸員資格について

- 修士課程修了後、一般企業へ就職した卒業生も多い。
- その場合、新聞社や放送局の文化事業部や美術出版など美術史に関わる業種のほか、総合職として専門とは直結しない業種へ就職する場合も多い。大学院で培った論理的思考力や言語的表現力、そして美術史学を通じて鍛えたビジュアルリテラシーは、高度化する現代社会のあらゆる場で求められている。
- 学芸員や研究職など、美術史に関する専門職に就くことを目指す場合、博士後期課程へ進学し研究を深めながら就職の機会を待つこととなる。なお、近年では修士課程卒業と同時に学芸員に就職するケースも増えている。
- 学芸員資格を未取得の場合、大学院在学中に取得を目指すことができる。

イタリア・エミリア＝ロマーニャ州
ラヴェンナ　サン・ヴィターレ聖堂

◆受験を検討中の方へ

- 学芸員を希望する場合、公募の条件が「大学卒以上」であっても、実際には「修士修了」以上の専門性が求められ、大学院への進学が不可欠である。
- 美術史学コースでは、日本・東洋・西洋美術の3分野に分かれて、指導教員の下で2年以上をかけて修士論文を執筆する。さらに研究を継続する場合は、博士後期課程に進学し、3年以上をかけて博士論文を執筆することになる。3年で博士論文が完成するのは稀で、多くの学生は5年～9年で論文を提出している。
- 大学院進学のためには、作品に対する基本的知識はもちろん、文献を読む力、語学力が必須である。日本美術ではくずし字、東洋美術では漢文、西洋美術では英語ともうひとつの外国語が要求される。
- 入試の過去問は、過去３年間分について、入学センターウェブサイトに公開。

https://www.waseda.jp/inst/admission/graduate/past_test/

See You!

美術史学コースHP
（過去の修士論文・博士論文題目一覧も、
こちらで閲覧できます）
http://flas.waseda.jp/arthistory/

美術史学コースInstagram
早稲田大学美術史学コース (@ha_Waseda)